

《担当者名》 澤田篤史 as-51@hoku-iryo-u.ac.jp 只石朋仁

【概要】

病院・施設の中で理学療法部門はそれが単独で機能することはなく、全体の管理運営の中に組み込まれている。それは必然的に職種異なる医療従事者の部署同士の関係を、全体の枠組みの中でとらえていく必要があることを意味する。医療行政と保険制度、病診連携とその中でのチーム医療、理学療法部門の位置づけと役割、院内感染対策、診療記録や他の記録の意義と運用、環境整備や事故対応策などについて考察しながら、臨床現場における理学療法を効果的に実施できるためのマネジメントを学習する。

【学修目標】

1 一般目標

医療機関や介護福祉機関における理学療法部門の位置づけと組織の管理運営の取り組みについて理解する。また安全で質の高い医療を提供するために、院内感染対策における手技について説明し、さらに診療記録作成の構成を理解して自ら論理的な診療記録を作成することができるようになる。

臨床現場における理学療法の包括的なマネジメントについて、これまでの学習内容に基づいて系統的に説明することができる。
行動目標

1. 医療機関における理学療法部門の位置づけとチーム医療における役割を説明できる。
2. 院内感染対策の現状における手技および今後の課題について説明し、意見を述べるができる。
3. 診療記録の構成を理解し、適切な診療記録を作成方法を説明できる。
4. 医療における収益構造や理学療法士が関連する診療報酬制度について説明できる。
5. 理学療法部門を安全かつ効率的に運用するための環境整備と事故対応策について説明できる。
6. 臨床現場における理学療法のマネジメントについて、これまでの学習内容に基づいて説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 医療機関の組織と理学療法	医療機関の区分と組織、その中でのリハビリテーションおよび理学療法の役割	澤田篤史
2	感染対策と理学療法 リスク管理	・医療機関における院内感染 ・院内感染対策の現状 ・感染防止における理学療法士の役割	澤田篤史
3	診療記録の構成（1）	・診療記録の目的と役割 ・診療記録の構成	只石朋仁
4	診療記録の構成（2）	・問題指向型診療録（POMR）の実際 ・診療記録の監査	只石朋仁
5	理学療法部門の管理・運営論（1）	・医療関連施設の区分（病棟基準, リハ施設基準） ・医療における収益構造 ・理学療法士が関連する診療報酬制度	只石朋仁
6	理学療法部門の管理・運営論（2）	・介護関連施設の区分（入所, 通所, 訪問） ・介護における収益構造 ・理学療法士が関連する介護報酬制度	只石朋仁
7	理学療法部門の管理・運営論（3）	・多職種との連携およびリハビリテーション部門の運用 ・教育と管理 ・環境整備のための視点 ・安全管理	澤田篤史
8	理学療法と紛争 まとめ	・理学療法にまつわる係争案件の事例検討 ・まとめ	澤田篤史

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業ごとのリアクションペーパー（50%）および確認テスト（50%）で評価する。

【教科書】

教科書は使用しない。

講義の進行に沿ってその都度プリントを配布する。

【参考書】

斎藤昭彦 他 「PTOTビジュアルテキスト・リハビリテーション管理学」 羊土社 2020年

植松光俊 「理学療法管理学」 南江堂 2018年

【学修の準備】

- ・一年次より行ってきた臨床実習での学修内容を系統的に整理しておくことが重要である。
 1. 臨床実習を行ってきた病院の組織とその特徴について（30分）
 2. 病院全体で取り組んでいる院内感染予防策および理学療法部門の感染予防策について（60分）
 3. 病院全体での、あるいは理学療法部門での事故予防策および対応策について（60分）
 4. 臨床実習を通して学んだ診療記録の方法と課題について（60分）
- ・講義や演習で行った内容について、収集資料や適切な参考資料による復習を行うことが重要である。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

澤田篤史（理学療法士）、只石朋仁（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

急性期病院やリハビリテーション病院におけるリスク管理や多職種連携のあり方、診療報酬制度と施設基準などリハビリテーション部門における管理者としての各教員の実務経験を基盤に置いた講義を行う。